

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人十字の園		
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム 笑みの里 富士山ユニット		
所在地	静岡県御殿場市北久原578-3		
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果市町村受理日	平成29年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouyuu_detail_2016_022_kami=true&jiyosyoCd=2291200059-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族や地域の方などなたでも気軽に足を運んでいただけるよう、日中は玄関等の施錠は行わず、皆さんののんびりくつろいで過ごすことのできるよう家庭的で温かい雰囲気作りを心がけている。
また、ご利用者ひとりひとりの能力を見極め、職員が黒子的な存在となることで、ご利用者自信が主体となり日々の生活を送っていただけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の特別養護老人ホームから異動した職員もいて、当初は「生活動作を増やしての自立支援」が浸透していたとは言い難かったものの、1年目から利用者1名が自宅復帰を果たしたりと早期に職員の意識転換も進み、4年目を迎えた現在は「手伝わずに待つ」ことが馴染んでいます。それでも未だ「あれをしましょうか」と誘導してしまうこともあると自省し、「個々の利用者が主体的に潤いのある生活が送れる」との事業目標をたてていることに頭が下がります。最近嬉しかったことは「利用者が、入居半年をかけてナースコールを自身で押せるようになったこと」と語る職員の発言に、目標への努力と自負が滲む事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時、法人理念・聖句・当施設の理念を読み上げ、互いに共有し、常に念頭に置きつつ日々の業務を行っている。	法人理念、御殿場十字の園理念については法人研修で学びを繰り返し、理念をベースに年度の事業目標として立案した「個々の利用者が主体的に潤いのある生活が送れる」では、利用者の身近に洗濯物を置き「たまたまかな」を誘引するといったことが日々おこなわれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りやさいと焼きなどの地域行事や日々の散歩や買い物を通じて地域の方と交流を図れるよう努めている。	社会科見学の一環である児童来訪では、「介護の仕事に興味がある」との前提を以てグループ発表もあり、辞去時には「将来はこの仕事に～」と力強い声も挙がっています。また畑の世話や寄贈等日頃協力くださる地域の皆さんを敬老会に招き、家族にも紹介して会食を果たしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事などの積極的に参加し、ご利用者と接していただくことで、認知症に対する理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	PowerPointなどの映像資料を活用し、参加者の方にご利用者の日々の生活の様子をよりわかりやすくお伝えできるよう心がけているとともに、会議の場でいただいたご意見は、グループ会議の場で職員と共有し、さらなる質向上に努めている。	事故報告も詳細に示され、オープンな姿勢による話し合いが成されています。相模原の事件を受けて論議した結果、センサー式ライトや防犯スプレー等の導入に至り、またポスターセッションによる発表ではフリートークで参加者の自然な意見が引き出していることを書面確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供事業所意見交換会などに参加し当施設の実情を伝えている。	本年度は、管理者が市立小学校に出向き社会科見学の前講座として「認知症について」や「事業所の取組み」を生徒の前でレクチャーしています。また御殿場市が主宰する「地域密着型サービス提供事業所意見交換会」にも積極的に参加して連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等を通じ、全職員が共通の認識を持ち、身体拘束や玄関の施錠をすることなく、ご利用者の尊厳を尊重するケアを行うよう努めている。	法人本部に設置の身体拘束廃止委員会では事業所職員も委員を務め、外部研修にも参加できています。夜間は階段に転落防止柵が敷かれますが、法人内に安全衛生委員会も備わり、数ヶ月に1度メンタルケアの巡回があり、ストレスチェックも開始されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や関係資料の読み合わせを行うことで虐待防止に関する知識を深めるとともに、日頃よりご利用者の全身状態などを職員間で情報共有を図り、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に内部研修などを通じて学ぶ機会を設けているが、個人差がみられるため、引き続き定期的に学ぶ機会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金やリスクに関する説明など、可能な限り時間をかけご家族・ご利用者の方に安心・納得していただけるよう丁寧な対応を心がけるとともに、不明な点がある場合は気軽に問い合わせいただけるようお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極にご家族と連絡を取り合うことで安心してサービスをご利用していただけるように心がけるとともに、ご家族やご利用者が意見・要望を発しやすい雰囲気作りに配慮している。	管理者が2名体制と、家族は頼りとする人が多くて安心です。6～7割の家族とはeメールも開通しており、運営推進会議には概ね各ユニットから1家族ずつ参加してもらっており、また隔月発行の「笑みの里便り」には笑顔の写真も添えられて、事業所理解へつなげています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場を通じて、職員の意見や提案を聞き、職員全員で改善策などを検討し、質の向上に努めている。	「グループ会議」と名付けた全体会議が毎月実施され、熱を帯びて盛り上がりしてしまうこともしばしばです。超過時間については会議手当が用意され、職員の「言いたい」「解決したい」気持ちや考えを法人も応援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や給与規定、育児介護休業等の規則などを整備し、経験や資格等に応じ給与を定めたり、育児や介護をしながら就業継続できるよう努めている。また、有休消化率の向上や時間外労働の減少を目指し、目標などを設定し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス基準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格取得支援など専門知識、技術の向上が図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所との共同会議を定期的に開催し、情報の共有を図り、また、同業者の研修会に可能な限り参加したり、実践発表の機会をつくり、資質向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階で御家族や関係サービス提供者に可能な限り詳細な情報収集を行い、職員間で情報共有を図り、ご利用者の人となりを理解し、受容・傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃より情報交換をこまめに行うことで信頼関係を深め、安心してサービスをご利用していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面接を通じ、本人・ご家族双方の意向をしっかりと確認し、在宅生活の様子から課題を抽出し、必要な支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩で常に敬意をはらうことを忘れず、時にはご利用者から知恵を授かるなど、互いに支え合うという気持ちでご利用者と生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に勝るものはないということを念頭に入所後も引き続き関わりを大切にさせていただけるよう、外出や外泊支援を積極的に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、ご利用者が馴染みの店などに行き、親しい方との関係が継続できるように努めている。	入浴拒否の症状には馳せ参じて介助を代わってください、行きつけの美容院に付き添ったり、マクドナルド好きな利用者には店長から割引カードがプレゼントされるほど回数を重ねて下さる等、家族の大いなる協力に職員は助けられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯や料理など日々の生活を通じて互いに役割を持ち、助け合いながら生活が送れるように、環境作りなどに配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰を果たしたご利用者・ご家族に対し、その後のご様子などを伺ったり、担当ケアマネとも情報交換を行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活からご利用者が何を望んでいるのか、何をしようとしているのかを理解し、個人のペースで落ち着いて生活できるように心がけている。	テレビニュースの紫陽花を観ての「行きたいね〜」の声を即座に反映して、その日のうちに下田へ往復したこともあり、「できることはやる」が慣行されています。また管理者が「手を出さずに待つ」を言い続けることで、「選ぶこと」「発意がでること」が日常に落とし込まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者・ご家族、サービス提供事業者などから可能な限り詳細に情報収集を行い、その方の人となりを理解し、職員間で情報共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや食事摂取量の把握のみならず、ご利用者の表情や行動など、日頃より観察する事で些細な変化にも気づき、職員間で情報共有を図ることができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ・担当職員を中心にグループ会議などご利用者の現状を話し合い、支援方法の見直し、介護計画書の作成を行っている。	利用者の担当職員と介護支援専門員が中心となってグループホーム会議に諮り、作成した原案を利用者と家族に説明し同意を得ています。2ユニット合同で会議をおこなっているため、普段の様子や介助方法について複数の職員からの報告や意見が集まっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録には日常の様子をはじめ、特記や職員の気づきを載せるとともに、必要に応じて連絡ノートに記載したり、グループ会議の場で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の想いを尊重し、常に臨機応変に対応できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他機関や地域住民に施設を理解・協力していただけるように丁寧な対応を心がけ、信頼関係を築き上げるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前にご家族に対し説明を行い、引き続きこれまでかかっておられた病院への受診を希望される際は可能な限りご要望にお応えできるよう努めている。	協力医である総合病院から毎月2回の訪問診療がありますが、在宅からのかかりつけ医を主治医とする利用者も数名います。協力医である総合病院の入退院はスムーズにおこなわれていて、特に医療相談員を通じた段取りの滑らかさは顕著です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のご利用者の様子に気を配り、些細な状態の変化も可能な限り見逃さず、常に看護師と情報共有を図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当施設の協力医の看護師・MSWと定期的に情報交換を図り、ご利用者の体調が急変した場合などに迅速に対応できるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前にご家族に対して終末期における当施設での対応に関して十分な説明を行うとともに、ご利用者の身体状況の変化により必要に応じてその都度、説明を行っている。	「重度化した場合の対応に係る指針」の書面も備わり、契約時には重要事項説明書で緊急対応に係る合意形成も出ています。此処での看取り実績はありませんが、母体である特別養護老人ホームから異動してきた職員や常勤看護師もいるため、職員配置としての心配はありません。	重要事項説明書の項目番号は適正なものに修正することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修などに参加した職員により伝達研修やマニュアルの読み合わせを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災・地震に関する訓練を行い、不測の事態に対処的確な対応がとれるように心がけている。また、推進会議の場などで、災害発生時における協力依頼を行っている。	初めて消防署の立ち合いを得て、水消火器をはじめとする操作指導や意見を仰いでいます。どの職員にも「体験してもらう」ことを大事にしています。年2回の訓練以外にも同内容を設定しています。普段使う乾麺も含む備蓄は数量だけでなく賞味期限も記載され、管理運営が堅固です。	「夜間は職員2名のため、利用者本人の自助共助を考えた誘導を～」との消防署の助言については、「日常生活で階段をつかって降りることができている」との強みを生かし、介護計画書と連動できるよう期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念を持ち、自尊心を傷つけないよう丁寧な言葉かけを心がけている。	「ちゃんづけ」はできれば避けたいことですが、馴染みのある呼ばれた方であり、本人もそうして欲しいとのことであれば受け入れています。また職員の発声は一定の音量があり、ゆっくりめに話すことを心掛けていることが、フロアでのやりとりから伝わります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表に出せるよう言葉づかいや落ち着いた雰囲気を作り配慮し、その方が何をしたいのか予測判断できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いするのではなく、本人の気持ちや体調などに十分に配慮しながら可能な限りご利用者一人一人のペースに添えるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と一緒に衣類を買いに出掛けたり、行きつけの美容院に行くなど、ご本人のこだわりを大切にできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と買い物に行きながら好きな物を買っていただいたり、可能な限り色とりどりの食材を使用することで、見た目も楽しんでいただけるよう配慮している。また、食事作りに関する一連の工程を互いに協力し合いながら行っている。	急な「あれが食べたい」にも応え、定期的に家族が研いでゆく包丁とまな板を自前で携え下ごしらえを手伝う人もいます。盛り付けや配膳、下膳を積極的におこなっていますが、箸を専用トレイに入れてそれぞれに手にとってもらう等主体的となるよう支援していることを視認しました。	職員が皆同じものを食べて食卓を囲んでいることは秀逸ですが、検食評価があるとなおよいと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表を随時確認し、職員間で連携し合いながら、摂取量の少ない方にかんして代替え品を提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・歯科衛生士の指導のもと毎食後、歯磨きや入歯の手入れをしていただき、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個人の排泄パターンを把握し、こまめなトイレ誘導を行うとともに、紙パンツから綿パンツへの移行支援にも力を入れている。	男性利用者の飛散防止に敷く吸湿パットは毎朝取り換え、また昨年から湿らせた檜を置き消臭対策にも気遣っています。入居半年をかけてナースコールを自身で押せるようになった利用者もおり、誘導や消耗品への配慮もあって7~8割の人が入居時の状態から向上しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬には頼らず、可能な限り自然排便が行えるよう、食材や日々の食事・運動など規則正しい生活を送っていただけるよう配慮し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の要望に添えるよう努めている。また、入浴拒否が強い方に関しては、無理強いせず、ご本人の気分やその時の状態によりいつでも入浴できるよう臨機応変な対応ができるよう心がけている。	下着類を手提げ式のバックで持ち込むため煩雑さが無い脱衣スペースです。シャンプーをはじめ消耗品は個々人に用意され、広い浴室に専用棚があることやコルクの床材が目を惹きません。浴剤など特段「楽しみ」の用意はないものの、仲の良い二人で入浴することもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後など居室やソファー・畳などで休んでいただけるよう支援するとともに、照明や雑音などにも配慮し、ゆっくり休んでいただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報を確認するとともに、薬の変更や頓服薬使用時などは特に注意して様子観察を行うよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や裁縫・園芸などの方が得意なことに目を向け、日常生活の中でも張り合いを持てるような雰囲気づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者からの要望がある際は可能な限り要望に添えるよう努めるとともに、定期的ドライブ外出などを行うことは勿論のこと、ご家族に対しても積極的に外出・外泊の働きかけを行っている。	いざとなれば法人のリフト付きワゴンを借りることもでき、時之栖や富士霊園への花見、伊豆長岡や久能のいちご狩り、勝沼のさくらんぼ狩り、ぶどう狩りは恒例となっています。天気の良い朝は全員に声をかけ、「行きたくない」人にも順次散歩してもらえよう調整しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者一人一人が必要な時にお金が使えよう、外出時など何か購入したいものがある時にはご自分の財布を持ち、使用できるよう、また、能力に応じて支払いも行っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じてご家族へ電話を話しができるよう、ご家族にも事前に説明し協力をいただいている。また、年賀状の作成など手紙を書く機会も設けるように心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔に保つよう努めるとともに、整理整頓、温度湿度調整にも気を配り、季節の花や風景や季節の飾りなどを取り入れた空間づくりに配慮している。	七夕には生竹に飾り付けたり、現在は室内にクリスマスイルミネーションを引いて夜間点灯させていて、どの時節行事も本格的に楽しんでいきます。朝晩の掃除、朝の換気とともに加湿器はユニット毎に3台置いています。また利用者の大半がMYエプロンを持ち、片づけに意欲的です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファをご利用者の関係性を見ながら、模様替えや変化をつけ、過ごしやすい居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具などがある場合は可能なかぎり、持参していただくよう入所前の段階でご家族に説明を行い、ご利用者が安心して過ごしていただけるような居室作りを心がけている。	コーナーに大小の緑の鉢植えが並び、どこの家庭にもあるような光景にホッとする居室には利用者本人が案内くださり、本年の目標を自ら書にしたためた掲示や家族写真に囲まれて暮らす様子を視認しました。富士山が見える部屋もあり、自室で静かに年賀状を書いている人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活動作の中で一人一人の状態に合わせ、可能なかぎり、残存機能を活かし、普通の生活が送れるよう、見守り・支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059	
法人名	社会福祉法人十字の園	
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム 笑みの里 羽衣ユニット	
所在地	静岡県御殿場市北久原578-3	
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族や地域の方などなたでも気軽に足を運んでいただけるよう、日中は玄関等の施錠は行わず、皆さんののんびりくつろいで過ごすことのできるよう家庭的で温かい雰囲気作りを心がけている。
また、ご利用者ひとりひとりの能力を見極め、職員が黒子的な存在となることで、ご利用者自信が主体となり日々の生活を送っていたけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の特別養護老人ホームから異動した職員もいて、当初は「生活動作を増やしての自立支援」が浸透していたとは言い難かったものの、1年目から利用者1名が自宅復帰を果たしたりと早期に職員の意識転換も進み、4年目を迎えた現在は「手伝わずに待つ」ことが馴染んでいます。それでも未だ「あれをしましょうか」と誘導してしまうこともあると自省し、「個々の利用者が主体的に潤いのある生活が送れる」との事業目標をたてていることに頭が下がります。最近嬉しかったことは「利用者が、入居半年をかけてナースコールを自身で押せるようになったこと」と語る職員の発言に、目標への努力と自負が滲む事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時、法人理念・聖句・当施設の理念を読み上げ、互いに共有し、常に念頭に置きつつ日々の業務を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りやさいと焼きなどの地域行事や日々の散歩や買い物を通じて地域の方と交流を図れるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事などの積極的に参加し、ご利用者と接していただくことで、認知症に対する理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	PowerPointなどの映像資料を活用し、参加者の方にご利用者の日々の生活の様子をよりわかりやすくお伝えできるよう心がけているとともに、会議の場でいただいたご意見は、グループ会議の場で職員と共有し、さらなる質向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供事業所意見交換会などに参加し当施設の実情を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等を通じ、全職員が共通の認識を持ち、身体拘束や玄関の施錠をすることなく、ご利用者の尊厳を尊重するケアを行うよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や関係資料の読み合わせを行うことで虐待防止に関する知識を深めるとともに、日頃よりご利用者の全身状態などを職員間で情報共有を図り、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に内部研修などを通じて学ぶ機会を設けているが、個人差がみられるため、引き続き定期的に学ぶ機会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金やリスクに関する説明など、可能な限り時間をかけご家族・ご利用者の方に安心・納得していただけるよう丁寧な対応を心がけるとともに、不明な点がある場合は気軽に問い合わせいただけるようお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極的にご家族と連絡を取り合うことで安心してサービスをご利用していただけるように心がけるとともに、ご家族やご利用者が意見・要望を発しやすい雰囲気作りに配慮している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場を通じて、職員の意見や提案を聞き、職員全員で改善策などを検討し、質の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や給与規定、育児介護休業等の規則などを整備し、経験や資格等に応じ給与を定めたり、育児や介護をしながら就業継続できるよう努めている。また、有休消化率の向上や時間外労働の減少を目指し、目標などを設定し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス基準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格取得支援など専門知識、技術の向上を図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所との共同会議を定期的に開催し、情報の共有を図り、また、同業者の研修会に可能な限り参加したり、実践発表の機会をつくり、資質向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階で御家族や関係サービス提供者に可能な限り詳細な情報収集を行い、職員間で情報共有を図り、ご利用者の人となりを理解し、受容・傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃より情報交換をこまめに行うことで信頼関係を深め、安心してサービスをご利用していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面接を通じ、本人・ご家族双方の意向をしっかりと確認し、在宅生活の様子から課題を抽出し、必要な支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩で常に敬意をはらうことを忘れず、時にはご利用者から知恵を授かるなど、互いに支え合うという気持ちでご利用者と生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に勝るものはないということを念頭に入所後も引き続き関わりを大切にさせていただけるよう、外出や外泊支援を積極的に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、ご利用者が馴染みの店などに行き、親しい方との関係が継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯や料理など日々の生活を通じて互いに役割を持ち、助け合いながら生活が送れるように、環境作りなどに配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰を果たしたご利用者・ご家族に対し、その後のご様子などを伺ったり、担当ケアマネとも情報交換を行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活からご利用者が何を望んでいるのか、何をしようとしているのかを理解し、個人のペースで落ち着いて生活できるように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者・ご家族、サービス提供事業者などから可能な限り詳細に情報収集を行い、その方の人となりを理解し、職員間で情報共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや食事摂取量の把握のみならず、ご利用者の表情や行動など、日頃より観察する事で些細な変化にも気づき、職員間で情報共有を図ることができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ・担当職員を中心にグループ会議などでご利用者の現状を話し合い、支援方法の見直し、介護計画書の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録には日常の様子をはじめ、特記や職員の気づきを載せるとともに、必要に応じて連絡ノートに記載したり、グループ会議の場で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の想いを尊重し、常に臨機応変に対応できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他機関や地域住民に施設を理解・協力していただけるように丁寧な対応を心がけ、信頼関係を築き上げるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前にご家族に対し説明を行い、引き続きこれまでかかっておられた病院への受診を希望される際は可能な限りご要望にお応えできるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のご利用者の様子に気を配り、些細な状態の変化も可能な限り見逃さず、常に看護師と情報共有を図れるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当施設の協力医の看護師・MSWと定期的に情報交換を図り、ご利用者の体調が急変した場合などに迅速に対応できるよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前にご家族に対して終末期における当施設での対応に関して十分な説明を行うとともに、ご利用者の身体状況の変化により必要に応じてその都度、説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修などに参加した職員により伝達研修やマニュアルの読み合わせを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災・地震に関する訓練を行い、不測の事態に対した確な対応がとれるように心がけている。また、推進会議の場などで、災害発生時における協力依頼を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念を持ち、自尊心を傷つけないよう丁寧な言葉かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表に出せるよう言葉づかいや落ち着いた雰囲気を作り配慮し、その方が何をしたいのか予測判断できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いするのではなく、本人の気持ちや体調などに十分に配慮しながら可能な限りご利用者一人一人のペースに添えるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と一緒に衣類を買いに出掛けたり、行きつけの美容院に行くなど、ご本人のこだわりを大切にできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と買い物に行きながら好きな物を買っていただいたり、可能な限り色とりどりの食材を使用することで、見た目も楽しんでいただけるよう配慮している。また、食事作りに関する一連の工程を互いに協力し合いながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表を随時確認し、職員間で連携し合いながら、摂取量の少ない方にかんして代替え品を提供するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・歯科衛生士の指導のもと毎食後、歯磨きや入歯の手入れをしていただき、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個人の排泄パターンを把握し、こまめなトイレ誘導を行うとともに、紙パンツから綿パンツへの移行支援にも力を入れている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬には頼らず、可能な限り自然排便が行えるよう、食材や日々の食事・運動など規則正しい生活を送っていただけるよう配慮し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の要望に添えるよう努めている。また、入浴拒否が強い方に関しては、無理強いせず、ご本人の気分やその時の状態によりいつでも入浴できるよう臨機応変な対応ができるよう心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後など居室やソファー・畳などで休んでいただけるよう支援するとともに、照明や雑音などにも配慮し、ゆっくり休んでいただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報を確認するとともに、薬の変更や頓服薬使用時などは特に注意して様子観察を行うよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や裁縫・園芸などの方が得意なことに目を向け、日常生活の中でも張り合いを持てるような雰囲気づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者からの要望がある際は可能な限り要望に添えるよう努めるとともに、定期的にドライブ外出などを行うことは勿論のこと、ご家族に対しても積極的に外出・外泊の働きかけを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者一人一人が必要な時にお金が使えよう、外出時など何か購入したいものがある時にはご自分の財布を持ち、使用できるよう、また、能力に応じて支払いも行っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じてご家族へ電話を話しができるよう、ご家族にも事前に説明し協力をいただいている。また、年賀状の作成など手紙を書く機会も設けるように心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔に保つよう努めるとともに、整理整頓、温度湿度調整にも気を配り、季節の花や風景や季節の飾りなどを取り入れた空間づくりに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファをご利用者の関係性を見ながら、模様替えや変化をつけ、過ごしやすい居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具などがある場合は可能なかぎり、持参していただくよう入所前の段階でご家族に説明を行い、ご利用者が安心して過ごしていただけるような居室作りを心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活動作の中で一人一人の状態に合わせ、可能なかぎり、残存機能を活かし、普通の生活が送れるよう、見守り・支援を行っている。		